

〔炎症性腸疾患外科〕

研修の特徴と内容

【特徴】

炎症性腸疾患外科は主に潰瘍性大腸炎やクローン病の診断や治療について、基本的な手技から高度技術まで指導します。

【内容】

① 一般目標（G I O）

臨床医にとって必要な消化器外科・一般外科の基礎的知識と技術、態度を習得するとともに、外科チームの一員として診断、治療に参加することで、全人的な管理能力を身につける。

② 行動目標（S B O）

1. 各疾患について、外科的治療の適応に関する基本的診療能力の向上に努める。(技能)
2. 患者と医師との関係について、I C (Informed consent)を通じて良好に理解しあう環境を築くことができる。(解釈)
3. 医療を行う際の安全確認の考え方を理解し安全管理が行える。(問題解決)
4. 外科診療に必要な処置、手技、周術期管理（輸液路の確保、輸液管理、ドレーン管理、清潔操作、皮膚切開、縫合、糸結び）を理解し、行うことができる。(技能)
5. 手術をはじめ外科診療上で必要な基礎的知識（局所解剖、輸液と輸血、外科的感染症、創傷治癒管理、腫瘍学、外科病理学）について述べる事ができる。(技能)
6. 患者の病歴の聴取と記録ができ、基本的な身体診察法を理解し行える。(技能)
7. 外科的患者の必要な検査・治療計画を立案できる。(問題解決)
8. カンファレンスに参加し、症例のプレゼンテーションをおこなう。(問題解決)
9. 外科診療に必要な画像診断の読影方法が理解できる。(解釈)
10. 病棟患者への分かりやすい初期説明が実施できる。(態度)
11. 外科部門スタッフと良好なコミュニケーションをとることができる。(態度)
12. 外科緊急時の対応を理解することができる。(知識)
13. 臨床上の疑問点を文献などから情報収集し解決の糸口を見つけることができる。

③ 研修内容（L S）

- ・指導医、上級医の指導下に患者を担当し、外科診療に必要な知識と技術を習得し、臨床実習学生を指導する。
- ・入院患者の問診、理学所見を把握し、必要な検査、治療の診療計画を立てる。
- ・各種検査の画像所見の読影法を習得する。
- ・回診、カンファレンスで受け持ち症例のプレゼンテーションを行う。
- ・静脈ルートの確保、胸水、腹水穿刺、縫合、結紮などの外科基本手技を経験する。
- ・毎日のグループ回診、教授およびグループ長回診に参加する。

④ 教育に関する行事

毎週 月曜日 午前8時～ 合同カンファレンス、抄読会、医局会

午後5時～ 術前・術後症例検討(内科と合同)、研究カンファレンス

⑤ 研修評価

1. 自己評価

受け持ち症例のサマリーをファイルし、E P O Cを入力する。

2. 指導医による評価

受け持ち症例のサマリーの内容、E P O Cの入力状況、診療チーム内での勤務状況や姿勢を参考に評価する。

指導医等

主任教授：池内 浩基

准教授：内野 基

研修実施責任者

助 教：坂東 俊宏